

## 2021 年度 RJSP2 校合同研究授業 高学年部会指導案

10月4日(月)	4、5年 総合的な学習の時間 「ブラジルを好きになる、 もっと好きになる ～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」	<児 童>RJ 4年生1名 5年生4名 SP5年生10名
RJ 2校時 SP 3校時 9:10～		<授業者>RJ 渡邊 篤 藤澤 義栄 SP 金古 和美

### 1. 単元の目標

今、生活している『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』ために、ブラジル文化を『調べる』『体験する』『学ぶ』『作る』活動を通して、日本文化との違いやよさに気づき、そのよさを様々な人たちに伝えられるようにする。

- ・ブラジルの文化の理解を深め、ブラジルでの生活の中で楽しみを見つけ、理解したことを発信する。【探求課題】
- ・ブラジル文化に触れ、体験することで、ブラジル文化と日本文化の違いに気づき、ブラジルのよさを伝えることができる。【知識及び技能】
- ・ブラジルの文化(人、もの、こと)の中から課題を見出し、目的に応じた情報を収集・比較し解決策を見出す活動を通して、相手や目的に応じて表現したり、構成を考えて発信したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・進んでブラジル文化に関わり、ICTを有効に活用して交流したり発信したりすることで、他者と協力したり、助け合ったりして物事を成し遂げようとするすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

### 2. 児童の実態

RJ:児童の在ブラジル期間は2年以上2名、1年以上2年未満1名、1年未満2名である。

実施したアンケート結果から『ブラジルが好きだ』という子どもたちがほとんどであった。渡伯したばかりの時は日本との違いに、不安が大きかったが生活していくうちにどんどん好きになっていくようであった。

好きな理由は『ブラジルの人は優しい』『食べ物がおいしい』が多かった。ブラジルについて興味があること、知らないことが多いのもっと知りたいと考えている。

また、少人数の活動が多いため、リオ日学の中であれば自分の意見や学んだことを人に伝えたりすることに抵抗はない。しかし、大勢の人や校外の方の前での発表する機会が少ないため、委縮してしまい、積極性がなくなってしまう。

SP:5年生は男子6名、女子4名計10名である。どちらかというとな活発な児童が多い。発言が多く、よく考えて行動する児童もいるが、落ち着きのない児童や慎重に考えて行動する児童など個性豊かである。

サンパウロの生活には概ね順応しているが、中には以前いた別の地域を懐かしむ発言も見られる。このような児童が生活している地域を見直し、知らなかったことに気付いたり、見過ごしていたことの価値を見つけたりは大変有意義であると考えられる。

また、長く続いたオンライン生活のため、ICT機器の扱いには慣れている児童が多いので、調べ学習や交流学习にさらに活かせる場の設定が有効だと考える。10人という少人数で活動している児童にとって、オンラインであっても、他地域の同世代の子どもたちと交流することは、様々な価値観に触れるという意味で、非常に有意義であると考えられる。

### 3. 教材について

ブラジルには様々な文化があるが、本単元では『サンバ』について学習に取り組むようにする。両校の子どもたちが思い浮かべている『サンバ』は、カーニバルにおける特徴のある踊りを連想することがほとんどではあるが、その生まれた背景や歴史を知ったうえで、『サンバ』を改めて学んでみると、様々な視点から文化を見ることができると期待している。

また、踊りだけでなく、音楽、衣装などに注目することで、総合的な学習の時間だけでなく、他教科(体育のダンス、音楽のリズム楽器、家庭科の裁縫による製作など)と連携した授業が展開できると期待している。児童のアンケート項目の『ブラジルといえば何を思い浮かべるか(複数回答)』には、ほとんどの児童が『サンバ』を答えているため、主体的に学習に取り組み、活動の様子をまとめたり、紹介したりする発表活動を行うのに適した教材であると考ええる。

### 4. 遠隔授業の視点から、単元で育みたい子どもの資質・能力

本単元は、児童が、調べたことを分かりやすく『発信する活動』を通して、異なる地域や文化を比較し、理解を深めることをねらいとする。単元に向かう前にR J校とS P校対象児童の『交流を深める』試みを重ね、その上で相互の地域性を生かした調べ学習を通して地域理解が深まると考える。これは、2校合同研究の主題である「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」につながると考えた。

具体的には、「多様性を受け入れ」については、リオデジャネイロ、サンパウロの生活を通して身につけた知識や習慣から国内における地域の違いに気付いたり、日本とブラジルの考え方の違いを知ったりすることで、自分とは異なる考え方があることを受け入れ、柔軟な発想力を高めていくものと考ええる。

「柔軟で豊かなコミュニケーション力」については、少人数内で行う意見交換や交流から始め、徐々に人数を増やしながらか議論や発表する機会を増やし、表現する能力を高めていく。そのような過程でプレゼンソフト、文章作成ソフト、表計算ソフトなどを使いながら、様々な表現方法を身に付けられるようになると考える。

「協働できる子ども」については、個人の学習を深める活動だけでなく、他者と協力したり、助け合ったりして物事を成し遂げ、喜びを分かち合う活動を通して、お互いの意見を尊重したり、思いやりをもって自分の意見を伝えたりする態度が身に付くと考ええる。

また、遠隔授業においては、上記の主題が達成でき、同世代、同国の取り組みから始め、異世代、異地域との交流につなげて、幅広い視野をもった子どもたちを育みたいと考える。

## 5. 単元構成(20時間扱い・本時11/20)

時間	学習内容	支援・評価等
1	<p>「サンバについて知ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジル出身の先生からサンバの歴史などの説明を聞いて学び、音楽に触れてみる。</li> </ul> <p>ブラジルをもっと好きになるために、「サンバ」を学び、伝えるにはどのようにしたらよいだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジル文化を理解している。【知・技】</li> <li>・自ら課題を設定している。【思・判・表】</li> <li>・進んで活動に取り組んでいる【主】</li> </ul>
2 ～ 10	<p>「サンバについて調べよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【踊り】【衣装】【楽器】のグループに分かれ、疑問に思ったことを調べる。</li> <li>・グループごとに日本の踊りとの共通点や相違点を見つける。</li> <li>・調べ方、発表の仕方を考える。</li> <li>・個人で調べた内容をグループ内で発表、共有し、グループの発表を考える。</li> <li>・グループで発表することをまとめる。</li> <li>・講師による【踊り】の体験をする。</li> <li>・中間発表会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループには両校の児童が入るようにする。</li> <li>○一人一台タブレットを使用させる。</li> <li>○ハウリングが起きないように、グループごとに教室を分け、タブレットの音声を切り、集音マイクを使用する。</li> <li>○班長を中心に役割を決めて、発表のための作業を行わせる。</li> <li>○インターネットがつながりにくい時にはタブレットの接続台数を減らしたり、画面を切って音声やチャット機能を使わせる。</li> <li>○インターネットがつながらなくなってしまうときは、教師同士が携帯電話を使って情報交換を行うようにする。また、個人で行える活動をさせる。</li> <li>○疑問に思ったことへの答えがインターネット上で見つからない時には、図書を参考にしたり、サンバをよく知る人へインタビューするなどのアプローチの仕方に変えさせる。</li> <li>・ブラジル文化と日本文化の違いに気付いている。【知・技】</li> <li>・ブラジル文化の情報を収集し、ブラジル文化に関して疑問に思ったことを解決できている。【思・判・表】</li> <li>・ICTを活用してグループで協力して作業に取り組み、進んで活動に取り組んでいる。【主】</li> </ul>

1 1 ～ 1 5	「調べたことを発表しよう。」 ・ 中間発表会を振り返り、改善する。 <b>(本時)</b> ・ 発表会に向けて練習する。 ・ 発表会を行い、自分のグループ以外のジャンルを学ぶ。 (講師を招いて、講評をいただく) ※ここまでが SPRJ 合同授業	○発表は各グループ6分とし、実演を入れるようにする。 ○発表内容や方法のよかった点や改善点を伝え合い、よりよい発表にしていく。 ・ ブラジルのよさを伝えることができている。 <b>【知・技】</b> ・ ブラジル文化に関して疑問に思ったことを解決できている。 <b>【思・判・表】</b> ・ グループで協力して作業に取り組み、進んで活動に取り組んでいる。 <b>【主】</b>
1 6 ～ 2 0	「学んだことをまとめ、伝えよう」 ・ サンバについて学んだことを個人でまとめる。 ・ 個人でまとめたことを様々な人たちに発表する。	○各校で学習発表会や交流会等で発表できるようにする。 ・ ブラジルのよさを伝えることができている。 <b>【知・技】</b> ・ 相手に応じて表現を変えることができている。 <b>【思・判・表】</b> ・ 進んで活動に取り組んでいる。 <b>【主】</b>
	様々な視点から物事を見れるようになり、自分の考えを述べたり、議論して、ブラジルのよさをみんなに伝えることができたね。	

**【単元の評価基準】**

	A	B	C
知識・技能	ブラジル文化と日本文化の違いに気づき、ブラジルのよさを伝えることができた。	ブラジル文化と日本文化の違いに気づき、そのことを伝えることができた。	ブラジル文化と日本文化の違いに気づいた。
思考・判断・表現	ブラジルの文化の中から課題を見つけ、情報を収集・比較、解決し、相手や目的に応じて表現したり、構成を考えて発信したりすることができた。	ブラジルの文化の中から課題を見つけ、情報を収集・比較、解決し、表現したり、発信したりすることができた。	ブラジルの文化の中から課題を見つけ、情報を収集・比較、解決し、表現できた。
主体的に学習に取り組む態度	進んでブラジル文化に関わり、ICT を有効に活用して交流したり発信し、他者と協力したり、助け合ったりして物事を成し遂げようとすることができた。	進んでブラジル文化に関わり、ICT を活用して交流したり発信し、他者と協力したり、助け合ったりすることができた。	ブラジル文化に関わり、ICT を活用して交流したり、他者と協力することができた。

**【評価方法】**

- ・ 児童の毎時間のワークシート
- ・ 教師の観察
- ・ 児童の自己評価、相互評価の記録
- ・ 単元の事前アンケートと事後アンケートの結果による変容
- ・ 発表会の記録など

## 6. 本時のポイント

### 【子どもが主体的に取り組むための学習展開】

教師は最初に本時の活動のねらいを伝え、主体的に問題意識をもって活動できる場の設定をする。グループ活動では教師がアドバイザーとして関わり、子どもの意見を尊重し、話し合いになかなか参加できない子には、視点を与えたりしながら、活動や発言を促すようにする。最後にグループ内で個々の評価をして、子どもたちが次回以降も積極的にグループ活動に参加したくなるようにする。

### 【協働を通して学びを深めるためのICTの活用】

遠隔会議システムを用いることで、異なる地域の子どもたちをつなぎ、協働することで得られる協力する力、達成感、他者を受け入れる態度（心）を育てるようにする。特に様々な意見を聞くことで、自分自身の知識にさらに、多様な知識が加わり、より深い学びにつながっていくと考える。

## 7. 本時の目標

○自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができる。【学びに向かう力、人間性など】

○発表内容をより分かりやすいものにすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

## 8. 本時の展開(11/20)

主な学習活動と子どもの思考の予想	教師のかかわり
<p>&lt;前時までの活動や子どもの思考の流れ&gt;            中間発表会を行い、質問やアドバイスを教師が集約し、各グループに伝えた。            相手にわかりやすく伝えるためにはどうしたらよいかについて、問題意識をもっている。</p> <p>○グループごと3か所に分かれ、遠隔会議システムで一斉に集まる。            ○本時の流れ、目標(めあて)を確認する。            ・前時に行った中間発表会で出たアドバイスや質問を整理しよう。            ・グループでアドバイスや質問を共通理解しよう。            ・発表方法や内容を改善する方法を考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中間発表会の振り返りや反省を生かし、よりわかりやすく伝えるための方法を探し、次回の発表に向けて工夫しよう。</p> </div>	<p>○一人一台タブレットを使用する。            ○インターネットが繋がらなくなった場合は、グループで1台のタブレットにするよう対応する。            ○プリントにそって説明、班長中心に活動する内容を確認させる。</p>
<p>○ブレイクアウトルームで分かれ、グループごとに発表会に向けて内容を改善する。            ・発表時間が長かったから、内容を少し減らしたほうがよいね。            ・難しい言葉を多く使っていたから、簡単な言葉を使うようにしよう。            ・実演が見づらかったから、ゆっくり大きくやってみよう。            ・資料を見せるのに手間取ってしまったから、練習を繰り返すといいね。            ・質問に関して調べてみよう。</p>	<p>○グループ活動に全員が参加できるように促す。            ○改善策が思い浮かばないときは、アドバイスをする。</p>
<p>○グループ内で発表をして担当する教師に見てもらい、評価してもらう。            ・伝わりやすい内容になったね。            ・詳しく説明ができたよ。</p> <p>○個人で振り返りを行う。(プリント)            ○振り返りをグループ内で共有する。            ・発表が時間内に収まることができたよ。            ・自分の意見を伝えることができたよ。            ・まだ、上手に資料を見せることができないところもあったよ。</p> <p>○担当する教師からの評価を聞く。            ・話し合い活動で相手の意見を受け入れることができたよ。            ・発表する内容が、前よりわかりやすくなったよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中間発表の振り返りや反省を生かし、よりわかりやすく伝えるための方法を探し、次回の発表に向けて工夫しようとすることができたね。</p> </div> <p>○遠隔会議システムで一斉に集まり、次回の流れを確認する。            ・本時の続きと発表会に向けての練習をしよう。</p>	<p>○改善が進んだところまでを評価し、アドバイスをする。            ○児童主体で進まないようならば、教師主導で行う。            ○グループ活動の評価と個人の評価をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・話し合い活動に参加し、意見交換している。【主】            ・発表内容が改善され、分かりやすく、伝わりやすい内容にできている。【思・判・表】</p> </div> <p>○プリントで説明、確認をする</p>

## 本時の評価基準

	A	B	C
思考・判断・表現	発表内容を改善して、分かりやすく、伝わりやすい内容にした。	発表内容を改善して、分かりやすくした。	発表内容を改善した。
主体的に学習に取り組む態度	話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、相手の意見を受け入れていた。	話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったか、もしくは相手の意見を受け入れた。	話し合い活動に参加していた。

## 本時の使用機器、教室配置、担当教員、児童について

	リオデジャネイロ校				サンパウロ校			
グループ	場所	機器	担当教員	児童	場所	機器	担当教員	児童
踊り	4年生 教室	児童用 タブレット1台 教師用PC1台 (録画) 集音マイク	渡邊篤	小5年1名	教室1	児童用 タブレット3台		小5年3名
衣装	特別 教室	児童用 タブレット2台 教師用PC1台 (録画) 集音マイク・ スピーカー	(渡辺稔 校長)	小5年2名	教室2	児童用 タブレット3台 教師用PC1台	金古和美	小5年3名
音楽	5年生 教室	児童用 タブレット2台 教師用PC1台 (録画) 集音マイク・ スピーカー	藤澤義栄	小4年1名 小5年1名	教室3	児童用 タブレット4台		小5年4名
	※ZOOMを使用して、全員がつながるようにする。グループごとにブレイクアウトルームに分かれる。							
	※集音マイク・スピーカーを使用するため、児童用タブレットの音声は全てオーディオ接続しない。 ※教師用PCは共同ホスト				※児童用タブレットの音声は、グループで1台使用し、その他はオーディオ接続しない。 ※教師用PCはホスト			

## 総合的な学習の時間『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』

中間発表会を終えて

### 踊り

#### 【よかったところ】

- ・サンバのステップをちゃんと教えてくれた。
- ・実際にやるところ。
- ・サンバのステップの教え方がよいと思いました。
- ・スライドができていて良いと思いました。
- ・ステップは足を見せてよい。
- ・言葉がはっきりしていた。

#### 【わかりづらかったところ】

- ・ステップをさらにわかりやすく。  
→ステップがはっきりする工夫をしたらいい。
- ・少し言葉が少なかった。
- ・声がそんなに聞こえない。
- ・何を言っているのか分からない。  
→ゆっくり言う。
- ・スライドの人と話す人で分かれている。  
→どっちかに合わせる。
- ・RJを相手にするのにSPだけでいっぱい話しているのでわかりづらい。  
→ちゃんと原こうを作ってくわしく調べた方が、もっと上手になる。
- ・画面共有のスライドを映すのに時間がかかった。  
→事前に準備しておく。
- ・話すスピードが早かった。  
→ゆっくり話すとよい。
- ・原稿を見ながら発表した。
- ・時間が余った。  
→6分でまとまるように練習する



## 衣装

### 【よかったところ】

- ・ 本当の物（実物）を見せていた。
- ・ スライドをつかっていた。
- ・ 作り方を細かく言って、  
ぼうしの作り方の  
実物を見せてた。
- ・ 実物で紹介していて良いと思いました。
- ・ RJは、絵が入っていて良いと思った。
- ・ ゆっくり大きな声で  
しゃべっていたのでよい。
- ・ 理由をつけてしょうかい  
しているところがよい。
- ・ グループの中にしかいがいてよい。
- ・ 自分の意見を言っているところがよい。
- ・ 聞いていて面白い。

### 【わかりづらかったところ】

- ・ 話が聞き取りづらい。  
→ハキハキ言ってほしい。
- ・ もごもごしていた。  
→声を大きくしてほしい。
- ・ ぼそぼそ言うと伝わらない。  
→大きい口を開けて。
- ・ カチューシャの作り方がわからない。知りたい。  
→作り方を説明して時間を増やせると思う。
- ・ 少し言葉が少なかった。
- ・ 声がそんなに聞こえない。  
→声を大きく。
- ・ SPは、声が聞こえづらくてわかりづらい。
- ・ RJは、実物などを入れなく少し早口だった。  
→たまに動画をのせたり写真をのせても良いと思いま  
した。
- ・ 画面共有のスライドを映すのに時間がかかった。  
→事前に準備しておく。

## 音楽

### 【よかったところ】

- ・ スライド以外のものをつかっていた。
- ・ 話をしている人がわかるようにしている。
- ・ 楽器の特徴や作り方を丁寧に説明していた。
- ・ リズムを実際やっていた。
- ・ 順番が決まっていた。
- ・ 昔と今の違いがわかった。
- ・ アクセントがあることがわかった。
- ・ 司会がいる。

### 【わかりづらかったところ】

- ・ 聞こえづらい。  
→もう少しはきはきしゃべる。
- ・ 声が小さい。
- ・ すらすら読めなかった。
- ・ 発表の順番などが準備不足だった。
- ・ 何を言っているのかわからない。  
→近くにくる（マイク）
- ・ 画面がゆれた。  
→人が映る。
- ・ 実物を見せたほうが良い。  
→準備する。楽器を使ってほしい。

## すべてのグループ

### 【よかったところ】

- ・実物や実践があるとみんなが興味をしめしていた。

### 【わかりづらかったところ】

- ・早口での発表なので聞こえづらい。  
→発表するときはゆっくりするとよい。
- ・資料（スライド）の漢字の読み方がわからない、言葉の意味を知らない。  
→調べたことをそのまま読むのではなく、自分の言葉で発表する。
- ・発表時間が大幅にオーバーした。  
→次に発表する人は準備をしておく。  
(資料をすぐに映せるようにする、最初から最後まで発表順を確認するなど)

2021年10月4日(月)

SPRJ 合同授業(高学年)

## 総合的な学習の時間『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』

日本人学校 小学部 \_\_\_\_年 名前 \_\_\_\_\_

### 今日のめあて

- ・グループの話し合い活動に参加しよう。(自分の意見を伝えたり、他の人の意見を受け入れよう)
- ・中間発表会での振り返りをもとに、よりよい発表をできるようにしよう。(アドバイスを参考にしよう)

### 話し合い活動① (15分)

自分たちのグループで気づいたよかったところ

---

---

ほかのグループから言われたよかったところ

---

---

---

いっしょのところ

---

---

---

ちがうところ

---

---

---

話し合い活動② (15分)

自分たちのグループで気づいたうまくできなかったところ

---

---

ほかのグループから言われたうまくできなかったところ

---

---

どのように修正するか

---

修正(5分)

今後の予定

6日(水)13:40 発表会へ向け修正      13日(水)13:40 発表会へ向け練習

20日(水)or21日(木)13:40 発表会      27日(水)まとめ、振り返り

2021年10月4日(月)

SPRJ 合同授業(高学年)

総合的な学習の時間『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』

日本人学校 小学部\_\_\_\_年 名前\_\_\_\_\_

今日のふりかえり(5分)

S	A	B
発表内容が改善され、分かりやすく、伝わりやすい内容になった。	発表内容が改善され、分かりやすくなった。	発表内容が改善された。
話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、相手の意見を受け入れることができた。	話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったか、もしくは相手の意見を受け入れることができた。	話し合い活動に参加した。